

---

# キミと私の大切な時間

美月椎奈

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

キミと私の大切な時間

### 【Nコード】

N3754N

### 【作者名】

美月椎奈

### 【あらすじ】

高校2年生の飯沢初は、母と2人平凡な日々を暮らしていた。だが、いきなりの母の再婚で、初の生活はただの平凡ではなくなってしまう。なんと、再婚相手の息子、初の兄となる人は、まさかの意外な人物で……!?

## 第一話：突然の始まり

「私、再婚することにしたの」

始まりは、お母さんからのその一言からだった。

「はぁ・・・っ!?!?」

理解不能。

いきなりすぎて、開いた口が戻らない。

「だから、再婚」

母は、何も感じていないかのように平然としていた。

「だだだだだっつて、そんな事一言も・・・!」

そんな母とは裏腹に私は平然どころではない。

むしろ動揺を隠せなかった。

まあ、当然といえば当然だが……。

「しょうがないじゃない。急にプロポーズされたんだから。初ウイにだって、いつかは話すつもりだったのよ？」

「しょうがない」って……、聞いて呆れるよ……。

お母さんの「いつか」は絶対に信用できない。

「分かった分かった……。で？相手は誰な……」

ピンポーン

そう言いかけた時、玄関のチャイムが鳴った。

「あ……！祐ユウイチ一さんかしら……？」

どうやら、「祐一さん」というのは、再婚相手の名前らしい。

「え！？もう呼んでたの！？？」

「もちろんよ！あ、そうそう！それとね、アナタにお兄ちゃんが出るのよ！」

「え！？嘘……？子持ち……？！」

母から返事はなく、いつの間にか颯爽と玄関へと小走りして向かっていた。

「おじやまします」

2人の男の人の声が玄関の方から聞こえてくる。

どこから来るのかも分からない緊張が、心臓に悪い。

「どっぞー」

機嫌の良さそうな母の声。

「この子が私の娘よ。高校2年生なの」

彼らをリビングに入れるや否や、お母さんはすかさず私の紹介をした。

「おお、君が初ちゃんかあ。私は君嶋祐一だ。よろしくね」

微笑んだ顔には、なんとなく柔らかいオーラを感じる。

「こ……こんにちは」

「祐一さん」は、優しそうな人だった。

この人が父親になると思うと、なんだか不思議な感じがする。

「祐一さん」は話を続けた。

「あ、コイツが……私の息子の太一。無愛想なヤツだが、まあ、仲良くやってくれ」

ドアと重なっていて見えなかったが、無理やり‘祐一さん’が自分の息子を私に見える所に引き寄せる。

彼と目が合った瞬間、私の思考が一瞬停止した。

「……お前は……!?!?」

照れ気味にうつむいていた‘お兄ちゃん’が、まさかの事態に口を開いた。

「……君嶋って……」

もしかして……

「飯澤初……?」  
イイザワウイ

「君嶋先生……!?!?」

そう……。

私の、お兄ちゃん、は……

私の高校の、先生、だった……



## 第二話：2人きり

キーンコーン

放課後のチャイムが教室に響いた。

「はあ……」

昨日は散々だったなあ……。再婚はともかく、これから一緒の家に住むのは、さすがに気持ち的な面で少し窮屈だよ……。それにまさか、義兄がウチの高校の先生だったなんて……。学校で会ったらなんか気まずいじゃん。

ふと、その時、

「どーしたのっ？ため息なんか付いちゃって。」

突然、後ろから私じゃない女の子の音が響いた。

この声は……、多分……

「夜美……！」

「あつたりー！振り向かないのによく分かったね。さすが私の親友

だよー」

このやけに明るい子は楠木夜美。クスノキヨミかれこれ小学校時代からの付き合いになる。

「そりゃそうよ。何年友達やってると思ってるの」

「まあねー。ねね、それよりもさー、臨時の君嶋先生のトコ行かない?！」

ドキ……

うっわー。心臓に悪……。

「え……。何で……?」

私は、とりあえず、とぼける事にした。

「何でつて……。あんだ知らないの!? 君嶋先生、カッコよくて人気なんだよー! だから仲良くなりたいなあって」

……。夜美の瞳が気持ち悪いくらい輝いて見える。

へえ、私の「おにいちゃん」って人気者なんだ……。

「私はいいや。今日はちょっと用事があるから先帰るね!」

とにかく、先生と学校で会いたくない。  
絶対、変な空気が流れるもん。

「あ、そう？じゃあねー」

「うん。また」

そして、私は、全速力で走って家へと向かった。

ガチャ

「ただいまー」

しん・・・

何故か、家の中からは何も返事が返ってこなかった。

・・・あれ？いつもならお母さんがいるはずなのに・・・。  
それに、祐一さんもない・・・。

「どうしたのかな・・・ん？」

ふと、リビングのテーブルの上にあった置手紙のような物が入った。

「何これ・・・？」

「新婚旅行に行つて来ます。2週間後には帰つて来るから、それまで太一君と仲良くしてね」

「・・・つて、えええ!？」

「ただいま。・・・どうしたの・・・？」

さつき帰つて来たらしい「お兄ちゃん」が、言った。

私が無言で手紙を差し出すと、「お兄ちゃん」は状況を理解したのか、まじまじと私を見つめる。

「先生、どうする・・・？」

これって、先生と2週間も2人きりつて事なんですけど・・・。

先生が、完全に困り果てた様子で口を開く。

「・・・俺たち、どうしようか・・・？」

そして、いつもより更に気まずい沈黙が、この空間に流れた・・・。



### 第三話：兄妹

母はいつも突然だ。再婚だって、同居だってそうだ。

しかも、よりもよって新婚旅行まで……。

年頃の若い男女を1つ屋根の下に置いて行くなんて、母親としてやっちゃんいけないだろぉ！

だが、いくら心の中で怒りを叫んだところで、母には届かない……。

。「ごめんな……？俺、臨時だから他の部屋借りるお金なくて……  
。2週間、我慢してくれないか？」

先生が申し訳なさそうに口を開いた。

「そんな、先生のせいじゃないんですから、謝らないで下さいよ」

そつだ。悪いのは、お母さんと祐一さんだ。  
もうちよつと子どもの事も考えて欲しい。

「……そうか……。そういつて貰えると気が楽だよ……。」

微笑んだ顔は、祐さんにそっくりだった。

「ねえ……」

ふと、私はある事を思い出した。

「何だ？」

「私、ずっとお兄ちゃんが欲しかったの。だから、先生の事、お兄ちゃんって呼んでもいい？」

どうせ、一緒に住むんだし、それくらいはやってみたい……。

「なんだ。そんなことか。もちろん構わないよ。むしろ嬉しいな。」

「やった。お兄ちゃん。なんか新鮮だなあ」

ふふふ、と、私は笑った。

そして、嬉しくて、何度も心の中で、‘お兄ちゃん’と繰り返す。

「……俺も飯澤のこと、仮にも妹なのに名字で呼ぶのも変だよな・  
……」

「……?」

「……初ウイ……」

突然呼ばれた自分の名前。

ドキン……

え？……今のは何……？

「あ……、あはは……！いきなり呼び捨てだったから、調子狂っちゃったじゃん。でも、なんか変な感じだね」

ダメだ……。

ドキドキが止まらない……。

「ははは。そうだね」

お兄ちゃんの声。笑った顔。

それを、見るだけで、心臓がキュってなる……。

この気持ちは、一体、何……

？



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3754n/>

---

キミと私の大切な時間

2010年10月9日11時12分発行